

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎	◎	◎
	2	◎	◎	◎
	3	◎	◎	◎
	4	○	○	◎
	5	○	○	◎
	6	◎	◎	◎

人文科学研究科臨床心理学専攻博士後期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	新しい貢献がなされるような問題設定が十分になされ、その意図・意義が非常に明確であり、先行研究の体系的な検討・吟味が十分になされている。	新しい貢献がなされるような問題設定が十分になされ、その意図・意義が明確であり、先行研究の体系的な検討・吟味が行われている。	新しい貢献がなされるような問題設定が適切であり、その意図・意義が明確であり、先行研究の体系的な検討・吟味が行われている。	新しい貢献がなされるような問題設定に若干の曖昧さがあるが、その意図・意義は明確であり、先行研究の体系的な検討・吟味も行われている。	新しい貢献がなされるような問題設定が不適切であり、その意図・意義も不明瞭であり、先行研究の体系的な検討・吟味が不十分である。
課題を追求する上での方法論の適切性	方法論が非常に明確で、その選択や内容に非常に習熟しており、資料の収集、分類、分析に関する方法も非常に適切である。	方法論が明確で、その選択や内容に習熟しており、資料の収集、分類、分析に関する方法も適切である。	方法論が概ね明確で、その選択や内容にある程度習熟しており、資料の収集、分類、分析に関する方法も適切である。	方法論にいくつかの問題点はあるが基本的に適切で、その選択や内容にある程度習熟しており、資料の収集、分類、分析に関する方法も概ね適切である。	方法論が不適切で、その選択や内容にも習熟しておらず、資料の収集、分類、分析に関する方法も不適切である。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究・調査方法が非常に高い精度で妥当性を有しており、信頼性と有効性が高い。	研究・調査方法が高い精度で妥当性を有しており、信頼性と有効性が高い。	研究・調査方法が妥当性を有しており、一定の信頼性と有効性がある。	研究・調査方法の精度に改善点はあるが、基本的には妥当である。	研究・調査方法の精度が不十分で妥当性を欠いており、信頼性と有効性に欠ける。
結論の妥当性	結論およびそこに至る論理展開が非常に緻密で妥当であり、説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開が緻密で妥当であり、説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開が妥当であり、説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開と緻密さに改善点はあるが基本的に妥当で、一定の説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開は緻密さに欠け妥当ではなく、説得力に欠ける。
研究の独創性と研究分野への貢献	非常に独創的であり、研究分野をリードするような新たな知見をもたらしている。	独創的であり、研究分野に新たな知見をもたらしている。	独創的な要素があり、研究分野に新たな知見をある程度もたらしている。	いくつかの独創的な要素はあるが、新規性・貢献は限定的である。	独創性に欠け、新規性・貢献が不十分である。
その他	自立的な研究者として非常に高い能力を有している。	自立的な研究者として高い能力を有している。	自立的な研究者としてある程度の能力を有している。	自立的な研究者として最低限の能力を有している。	自立的な研究者としての能力を有していない。